

取扱説明書

保証書付

感震ライト付火災警報器



UGS1 電池方式 煙式（光電式2種）  
日本消防検定協会 鑑定合格品

お買い上げいただきありがとうございます。  
ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。  
本書は取り付け後もいつでも見られるところに大切に保管してください。

- この商品は火災による煙を検知して警報を発する住宅用火災警報器と地震発生時に自動点灯する感震ライトを組み合わせたものです。
- この警報器は消防法で定められた「住宅用防災機器」です。消防法で定められた「自動火災報知設備」には該当しません。
- 消防法で定められた「誘導灯」や建築基準法で定められた「非常用の照明装置」には該当しません。
- 消火設備や火災防止器ではありません。火災や地震による損害については責任を負いかねますので、ご了承ください。

保証書

型式	UGS1		
保証期間	お買い上げより1年間		
お買い上げ日	年	月	日
お客様	ご住所		
	お名前		
	電話		
販売店	住所・店名		
	電話		

※本書にご記入いただいた個人情報、保証期間内のサービス活動および安全点検活動のためにご利用させていただく場合がございますのでご了承ください。

株式会社 生方製作所

本社 〒457-0828 名古屋市南区宝生町4丁目30番地  
ホームページアドレス <http://www.ubukata.co.jp>  
お客様ご相談窓口 ☎ 0120-279-170（一般電話から）  
☎ 052-612-3488（携帯電話・PHS・公衆電話などから）

保証規定

- 保証期間はご購入日より1年間といたします。
- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの記載内容にそった正しい使用状態で保証期間内に故障した場合、無償で交換いたします。その場合は、お買い上げの販売店が当社のお客様ご相談窓口までお申しつけください。
- 保証期間内であっても次のような場合には有料とさせていただきます。
  - (イ) 誤ったご使用や不適当な改造・修理による故障、損傷。
  - (ロ) お買い上げ後の輸送、移動、衝撃による故障、損傷。
  - (ハ) 火災や天災地変（水害、地震、落雷など）、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の電源使用などで生じた故障、損傷。
  - (ニ) 車両や船舶などに搭載された場合に生ずる故障、損傷。
  - (ホ) 一般家庭用以外（例えば業務用など）に使用された場合の故障、損傷。
  - (ヘ) 本書の紛失またはご提示のない場合。
  - (ト) 保証書内の所定事項の記載漏れ、あるいは字句が書きかえられた場合。
- 付属のアルカリ乾電池は動作確認用であり、保証対象外です。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
- この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

特長

- 火災警報機能により火災発生時に警報音と赤色警報灯で危険をお知らせ
- さらに安心の感震ライト付き  
震度5相当の地震発生時に点灯するだけでなく、火災警報時にも点灯します。
- 電池寿命をお知らせ  
リチウム電池の場合は警報音と赤色警報灯で、アルカリ乾電池の場合は警報音でお知らせします。  
（電池寿命：リチウム電池約10年、乾電池約2年）

安全上のご注意

ピオマを正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、この取扱説明書には絵表示を使用しています。  
その表示と意味は次のようになっています。  
内容をよく理解してから本文をお読みください。

	<b>警告</b> この表示の注意事項を守らないと、使用者が重傷または軽傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。 または機能の一部に重大な影響を及ぼすおそれがあります。
	<b>注意</b> この表示の注意事項を守らないと、使用者が軽傷を負う、または物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。 または機能に悪影響を及ぼす可能性があります。

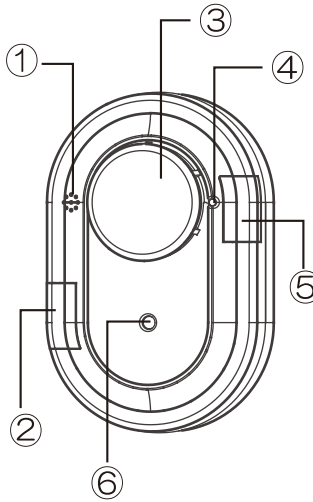
使用上のご注意

	<b>警告</b> 絶対に分解・修理・改造・針金などの異物の挿入はしないでください。故障の原因となります。
	落下させたり衝撃を与えるような取り扱いをしないでください。故障の原因となります。
	感震ライトは設置場所の揺れを検知して動作します。免震・耐震住宅や取り付け条件によっては動作しないことがありますので、ご注意ください。

	<b>注意</b> ●ピオマは直接煙が入らない場合は作動しません。また、次のような火災では作動しないことがありますので、ご注意ください。 ・火のまわりの早い火災 ・煙の発生しない火災 ・ガス漏れや薬品による爆発的な火災 ●ピオマは設置場所の煙を検知して、警報を発します。日頃、人のいない部屋に設置する場合は警報音が聞こえることを確認のうえ、設置をしてください。また、次の場合には警報音に気づかないことがありますのでご注意ください。 ・薬を服用後または飲酒後に就寝した場合 ・就寝部屋以外で警報器が作動した場合 ・交通、ステレオ、ラジオ、エアコンなど騒音が大きい場合 ●電池切れ時は警報音は鳴りませんので、ご注意ください。 ●くん煙式の殺虫剤など多量のガスが発生する薬品を使用する場合は、誤報や電池の消耗を防ぐため、ピオマを取りはずしたり、ビニール袋で覆うなどしてください。その後は、必ず元の状態に戻してください。 ●殺虫剤や化粧品などのスプレー、タバコの煙を直接ピオマにかけないでください。誤報の原因となります。 ●コンロの近くなど、油煙が発生する場所には取り付けしないでください。誤報の原因となります。
--	--

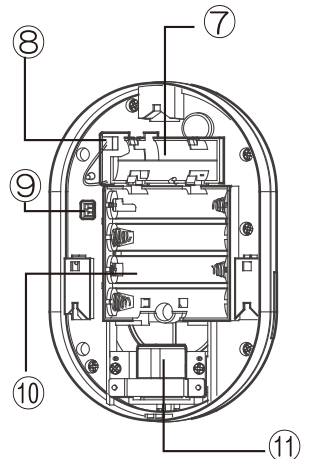
# 1 各部のなまえとはたらき

## 本体（表面）

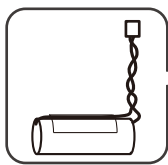


- ①ブザー
- ②感震ライト消灯ボタン  
感震ライトを消灯します。  
乾電池寿命お知らせ時には警報音を一時停止させます。
- ③煙検知部  
この部分に煙が入ることで火災警報が作動します。
- ④赤色警報灯  
火災警報時は点灯し、異常時は点滅します。
- ⑤火災警報停止ボタン  
使用法は『4.火災警報器のテスト方法』『6.火災警報を発したときは』『7.自動試験機能について』『8.リチウム電池寿命お知らせ機能について』をご参照ください。

## 本体（裏面）

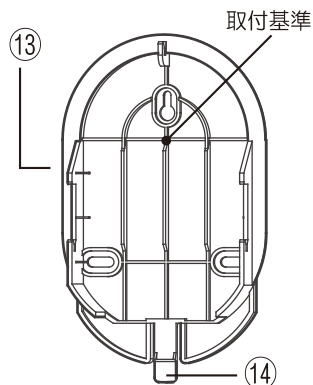


- ⑦リチウム電池ボックス  
付属のリチウム電池をご使用ください。
- ⑧移報コネクタ  
出荷時より接続してあります。はずさないでください。はずすと火災警報時に感震ライトが点灯しません。
- ⑨電池コネクタ  
使用前にリチウム電池のコネクタと接続します。
- ⑩乾電池ボックス  
単3形アルカリ乾電池をご使用ください。
- ⑪感震器  
地震を検知する部品です。出荷時は壁取り付け用に設置してあります。天井取り付けには、向きの変更が必要です。（『3.ピオマの取り付け方法』の②をご参照ください。）



- ⑫リチウム電池  
火災警報機能の専用電源です。（火災警報時にも感震ライトが点灯しますが、点灯には単3形アルカリ乾電池が必要です。）使用前に本体裏面の電池コネクタと接続します。

## 取付ベース



- ⑬取付ベース  
本体を壁または天井に固定するために使用します。出荷時は本体に取り付いています。
- ⑭取り外しボタン  
このボタンを押しながら、本体をスライドさせることで、取付ベースから本体をはずします。

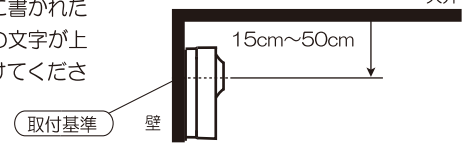
## その他

- 単3形アルカリ乾電池（4本）  
感震ライト機能の電源です。付属の乾電池は動作確認用です。
- 取付ネジ（3本）
- 取扱説明書・保証書（本書）

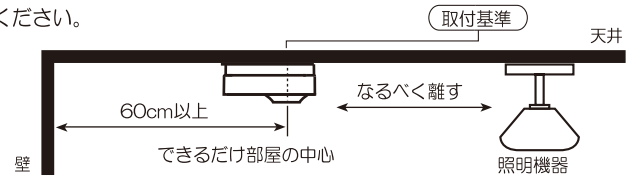
# 2 ピオマの取り付け場所

- ピオマは次のような場所への設置をおすすめします。
  - ・寝室（特にお年寄りや小さなお子様、ご病気の方がお休みになっている部屋）
  - ・階段や廊下、居室、台所

- 壁面に取り付けるときは煙検知部が天井面下15cmから50cmまでの範囲になるよう取り付けください。取付ベースの取り外しボタンが下になり、本体表面に書かれた“自動試験機能付”の文字が上になるよう取り付けください。



- 天井面に取り付けるときは煙検知部を壁や梁、棚から60cm以上離してください。

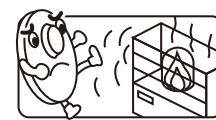


実際に取り付けるときは『3.ピオマの取り付け方法』をご参照ください。

※火災警報器の設置および維持基準については、政省令で定める基準に従い、市町村条例で定められます。各市町村によって設置場所が異なる場合がありますので、各市町村が定める火災予防条例を確認してください。

## ⚠ 注意

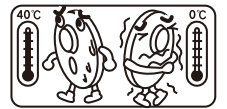
次のような場所には取り付けないでください。誤動作や故障の原因となります。



- 暖房器具の近くなど、燃焼性粒子の発生する場所・水蒸気が発生する場所



- 浴室など水のかかる場所・常時温度や湿度が高い場所



- 取り付け場所の温度が0℃より低い、あるいは40℃より高い場所



- 調理器具の真上など火災でない煙や蒸気などがかかる場所



- 屋外・ほこりや虫の多い場所



- 吊り下げ式の照明やタンスの真上

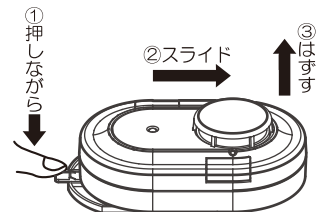


- 換気扇やエアコンの吹き出し口の近くなど、空気の流れが激しい場所  
※煙が流されてしまい、煙検知できないおそれがあります。1.5m以上離して設置してください。

# 3 ピオマの取り付け方法

## ① 本体を取付ベースからはずします。

- ・取付ベースについた取り外しボタンを押しながら、本体をスライドさせるとはずれます。



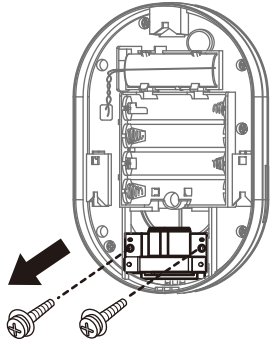
## ② 天井に取り付ける場合のみ 感震器の設置方向の変更を行います。

お買い上げ時の感震器の設置方向は壁取り付け用です。手順に従い、必ず変更を行ってください。

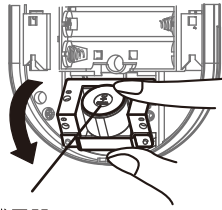
※壁に取り付ける場合は③に進んでください。

〔天井取り付けのみ〕

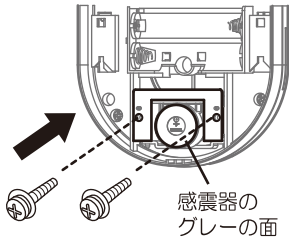
① 止めネジ2本をはずします。



② 感震器を引き出し、手前に回して、感震器のグレーの面を表に出します。



③ 止めネジ2本で固定します。



(参考)  
ネジ固定時の  
締め付けトルク  
0.2N・m

※必要以上に強くネジを締め付けしないでください。破損のおそれがあります。

**警告**

● 感震器は電線でつながっています。方向を変更する際、無理に引っ張ると破損し、故障の原因となります。

**注意**

- お買い上げの状態から感震器の方向を変更せずに天井に取り付けると、感震器が正常に動作せず、感震ライトが点灯したままとなります。必ず感震器の方向を変更してください。
- 取り付け場所を天井から壁に変更するときも必ず感震器の方向を変更してください。

③ 取付ベースを壁または天井に設置します。

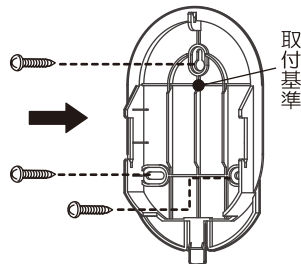
**警告**

- 安定した台に乗って作業を行ってください。転倒・落下などによりケガをするおそれがあります。
- 取付ベースは確実に固定してください。不備があると商品が落下し、ケガをしたり、商品だけでなく他の物品も破損するおそれがあります。
- 斜めの壁や斜めの天井に取り付けしないでください。また、フックでの固定は行わないでください。感震器が正常に動作しません。

取付ベースに書かれた取付基準が、正しい位置になるように設置してください。(『2.ピオマの取り付け場所』をご参照ください。)

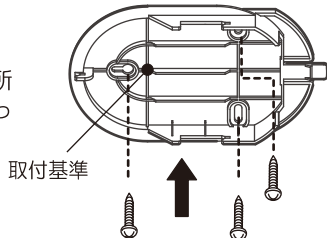
壁に取り付ける場合

壁面の柱などが通っている場所に、取り外しボタンが下になるように取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。床に対してできる限り、垂直に取り付けてください。



天井に取り付ける場合

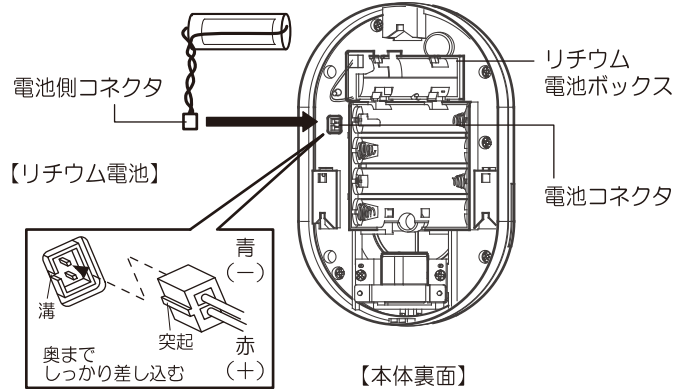
天井面の梁などが通っている場所に、取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。



④ ピオマ本体の側面に貼付している、設置年月シールに年月を記入します。

⑤ リチウム電池を取り付けます。

※リチウム電池のビニールやシールははがさないでください。



● 図のように電池側コネクタの突起と本体の電池コネクタの溝を合わせて奥までしっかりと差し込み、リチウム電池をリチウム電池ボックスに納めてください。

※リチウム電池を取り付けてから5秒後より火災警報停止ボタンは作動します。5秒以降に火災警報停止ボタンを1回押すと、「ピピ・ピーピー」と鳴りますが、警報音は自然に止まります。

**警告**

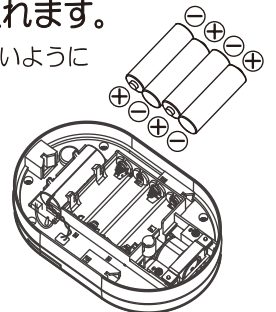
- リチウム電池は必ず付属のものをお使いください。(付属以外の電池をご使用になりますと、故障の原因となります。)
- 電線をリチウム電池とリチウム電池ボックスの間に挟まないようにしてください。本体が取付ベースに取り付けられなくなります。
- コネクタをしっかりと接続し、電池を正しく収納してください。正しく接続されていない場合は、警報音が鳴りません。

⑥ 単3形アルカリ乾電池を入れます。

● 表示に従い、電池の極性を間違えないように4本入れてください。

乾電池の寿命は約2年です。付属の乾電池は動作確認用ですので、2年より短くなる場合があります。

※単3形アルカリ乾電池以外の電池はご使用にならないでください。



電池の安全上のご注意

リチウム電池・アルカリ乾電池を取り扱う際は以下の点にご注意ください。誤って取り扱うと液漏れ、発熱、発火、破裂などにより、ケガや故障の原因となります。

**警告**

● 液漏れした電池は使用しないでください。  
万一液漏れしたものが目に入ったときは、目をこすらず、すぐに多量のきれいな水で洗い、医師の治療を受けてください。皮膚や衣服に付着したときには、すぐにきれいな水でよく洗い流してください。そのままにしておくと、目に傷害を与えたり、皮膚がかぶれたりする原因となります。

**注意**

- 付属または指定された以外の電池は使用しないでください。
- +極と-極を正しく入れてください。
- 充電をしないでください。
- 加熱・分解・変形をさせないでください。
- ショートさせないでください。
- 水にぬらしたり、ぬれた手で触れないでください。
- アルカリ乾電池を交換するときに、新・旧の乾電池、異なる種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。(リチウム電池は交換できません。)
- 幼児やお子様の手が届く範囲に放置しないでください。

## 7 感震ライトが点灯することを確認します。

・傾けるなどして感震ライトが点灯することを確認してください。

※感震ライト消灯ボタンを押すとその直後は消灯しますが、姿勢によっては再点灯します。

点灯しない場合は、『11.故障かな?と思ったとき』をご参照ください。

### ⚠ 注意

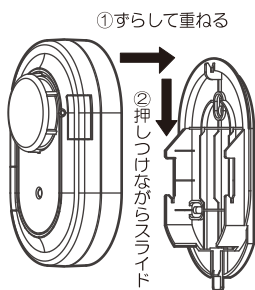
- 感震ライトの光を目に当て続けしないでください。目をいためる原因となります。

## 8 本体を取付ベースに固定します。

### ⚠ 警告

- 安定した台に乗って作業を行ってください。転倒・落下などによりケガをするおそれがあります。
- 本体や電池の落下に注意し、確実に本体を取付ベースに固定してください。不備があると商品が落下し、ケガをしたり、商品だけでなく他の物品も破損するおそれがあります。
- 落下などにより衝撃を与えた商品は使用しないでください。

・ずらして重ね合わせ、本体を取付ベースに押しつけながら、取り外しボタンの方向に「カチッ」と音が鳴るまでスライドさせて固定します。



※取り付け中に感震ライトが点灯することがあります。その場合は、本体を取付ベースに固定後、15秒程度待ってから感震ライト消灯ボタンを押して、感震ライトが完全に消灯することを確認してください。

取り付け後、感震ライト消灯ボタンを数回押ししても完全に消灯しない場合は、『11.故障かな?と思ったとき』をご参照ください。

## 9 火災警報器のテストを行います。

※取り付け後は『4.火災警報器のテスト方法』に従い、必ずテストを行ってください。

## 4 火災警報器のテスト方法

使いはじめや、3日以上留守にされた場合、電池交換などで再度取り付けを行った場合には、正常に動作することを必ず確認してください。

また、取り付け後は1カ月に1度定期点検を行ってください。

### ●テスト方法

火災警報停止ボタンを7秒以上長押しします。

### ●テスト結果

「ピピ、ピーピー」と鳴り、赤色警報灯が点灯、  
火災警報停止ボタンを押しはじめてから約7秒後から感震ライトが点灯。

⇒ 正常です。  
(何度も感震ライトを点灯させた場合には乾電池の交換をおすすめします。)

「ピピ、ピ」と鳴り、赤色警報灯が1回点滅、  
火災警報停止ボタンを押し続けても感震ライトが点灯しない。

⇒ リチウム電池の寿命(ピオマの交換時期)です。  
機器を交換してください。  
(『8.リチウム電池寿命お知らせ機能について』をご参照ください。)

「ピピ、ピピピ」と鳴り、赤色警報灯が3回点滅、  
火災警報停止ボタンを押し続けても感震ライトが点灯しない。

⇒ 煙検知センサの感度が劣化しています。  
機器を交換してください。  
(『7.自動試験機能について』をご参照ください。)

※煙などによって発した警報音を火災警報停止ボタンにより停止させた場合は、その後約5分間テストができなくなり、火災警報停止ボタンを押すと『ピピ』と鳴ります。

テストを行っても何も音が鳴らないときや「ピピ、ピーピー」と鳴っても感震ライトが点灯しないときは『11.故障かな?と思ったとき』をご参照ください。

## 5 感震ライトについて

### ●点灯のしかた

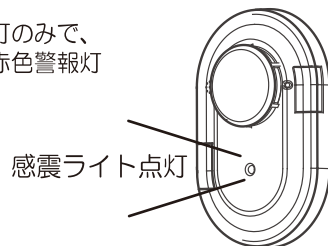
オレンジ色の感震ライトは、震度5相当の地震を検知した場合には約10秒かけて徐々に明るく点灯します。

また、火災警報時には警報と同時に明るく点灯します。

※地震検知時は感震ライトの点灯のみで、  
火災警報時は警報音が鳴り、赤色警報灯も点灯します。

上記以外で次のような場合にも点灯します。

- ◆震度5相当の人為的な振動
- ◆本体を大きく傾斜させた場合



### ●点灯時間

・地震検知の場合は約10分間点灯します。

※点灯中に再度地震を検知した場合は、最後に揺れを検知してから約10分間点灯します。

・火災警報の場合は警報が停止するまで点灯します。

### ●消灯させるには

・地震検知の場合は感震ライト消灯ボタンを押します。

※センサーが安定していない場合は再点灯します。

再点灯する場合は15秒程度待ってから再度感震ライト消灯ボタンを押してください。

・火災警報の場合は火災警報停止ボタンを押します。

※約5分間消灯し、再び火災警報を発した場合は点灯します。

### ⚠ 注意

●ピオマは持ち運び用には設計されておりません。本体だけでご使用になりますと電池がはずれるおそれがありますので、懐中電灯としてはご使用にならないでください。

●感震ライトの光を目に当て続けしないでください。目をいためる原因となります。

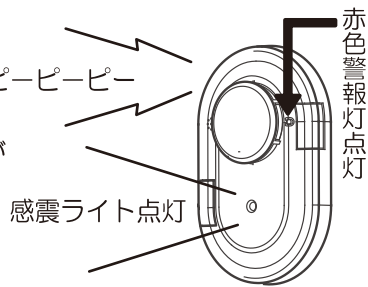
### ⚠ 警告

●テストの際は安定した台に乗って作業を行ってください。転倒・落下などによりケガをするおそれがあります。

●ライターなどの炎を使用してテストを行わないでください。商品を壊すばかりでなく、火災の原因となります。

## 6 火災警報を発したときは

煙を検知すると、「ピーピーピー」と警報音が鳴り、赤色警報灯と感震ライトが点灯します。



### 火災の場合

火元を確認し、避難してください。  
119番に通報するなど適切な処置をしてください。

### 火災でない場合

火災以外でも次のような場合、警報を発することがあります。  
火災警報停止ボタンを押すか、室内を換気すると警報が止まります。

- ◆スプレー式殺虫剤やヘアスプレーなどが直接ピオマにかかった場合。
- ◆濃厚なタバコの煙をピオマに吹きかけた場合。
- ◆調理の煙や水蒸気などがピオマにかかった場合。
- ◆線香や蚊取り線香などの煙を発生させた場合。

火災警報停止ボタンを押すと約5分間は警報音が止まるとともに感震ライトも消灯しますが、赤色警報灯は煙がなくなるまで点灯します。

火災警報停止ボタンを押しても、煙検知部に煙が残っている場合には、約5分後に再び警報音が鳴り、感震ライトも点灯します。換気を行ったり、うちわなどで煙検知部に風を送り、残った煙を排除することによって、警報は自動で止まります。

### 警告

- 警報音は電池コネクタを抜くことによっても停止できますが、コネクタを抜いた状態の警報器は絶対に取り付けしないでください。火災を検知できません。

## 7 自動試験機能について

ピオマには、煙検知センサの感度が劣化して正常に煙を監視できなくなった場合、自動的に異常をお知らせする自動試験機能が付いています。

異常を検知すると、約1分間隔で「ピピピ」と鳴り、赤色警報灯が3回点滅します。

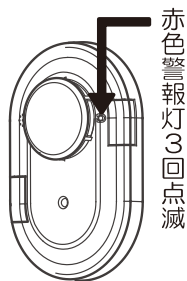
警報音を止めたいときは、火災警報停止ボタンを5秒以上長押ししてください。約24時間警報音が停止します。

(警報音停止中は赤色警報灯が約10秒間隔で3回点滅します。)

感度の劣化がお知らせされましたら、販売店にご連絡のうえ、すみやかに新しい警報器と交換してください。

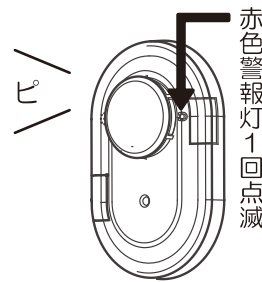
### 注意

- 感度の劣化がお知らせされた警報器を使用すると、火災を検知できなくなったり、遅れる場合があります。



## 8 リチウム電池寿命お知らせ機能について

リチウム電池の寿命が近づくと、約1分間隔で「ピ」と鳴り、赤色警報灯が1回点滅します。



警報音を止めたいときは、火災警報停止ボタンを5秒以上長押ししてください。約24時間警報音が停止します。

(警報音停止中は赤色警報灯が約10秒間隔で1回点滅します。)

リチウム電池寿命がお知らせされましたら、販売店にご連絡のうえ、すみやかに新しい警報器と交換してください。(リチウム電池は交換できません。)

※リチウム電池の寿命は約10年ですが、使用温度やホコリなどの外部環境や使用条件によって短くなることがあります。(機器の交換目安もリチウム電池寿命と同じ約10年です。)

### 注意

- リチウム電池寿命がお知らせされた警報器を使用すると、火災を検知できなくなったり、遅れる場合があります。
- 10年を経過した警報器はすみやかに新しい警報器と交換してください。機器の交換目安を越えて使用しますと、汚れなどにより内部に煙が流入しにくくなり、火災の検知が遅れる可能性があります。

## 9 乾電池寿命お知らせ機能について

単3形アルカリ乾電池の寿命が近づくと、約10秒間隔で「ピピピピピ」と警報音が鳴ります。警報音を止めたいときは、感震ライト消灯ボタンを5秒以上長押ししてください。約24時間警報音が停止します。

乾電池寿命がお知らせされましたら、すみやかに新しい単3形アルカリ乾電池と交換してください。交換後は動作確認をしてください。

『3.ピオマの取り付け方法』の⑥～⑨をご参照ください。

※普段から交換用の単3形アルカリ乾電池をご用意されることをおすすめします。

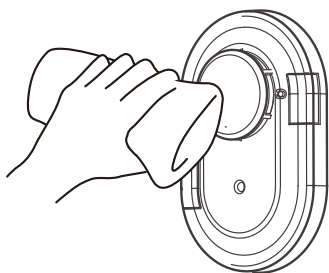
### 警告

- 使い切った乾電池はすぐに取り出してください。長時間放置すると液漏れの原因となります。
- 電池交換などでピオマ本体を取りはずすときは、安定した台に乗って作業を行ってください。転倒・落下などによりケガをすることがあります。
- 商品や電池の落下に注意してください。商品や電池を落としますと、ケガをしたり、商品だけでなく他の物品も破損するおそれがあります。

# 10 お手入れ方法

1年に1度は水で薄めた中性洗剤を浸して十分絞った布で汚れを拭き取ってください。

なお、煙検知部に著しい汚れが付着している場合は、火災を検知できないおそれがありますので、機器を交換してください。



## 警告

- お手入れは、安定した台に乗って作業を行ってください。転倒・落下などによりケガをするおそれがあります。
- 水洗いをしないでください。内部に水などが入らないようにしてください。
- 直接洗剤等を吹き付けしないでください。
- 分解・修理・改造・針金などの異物の挿入はしないでください。

## 注意

- ベンジン・シンナーおよびアルコールなどの有機溶剤は使用しないでください。
- ピオマ表面に傷がつくおそれがありますので、柔らかい布でやさしく汚れを拭き取ってください。

# 11 故障かな?と思ったとき

ピオマの症状と、考えられる原因、対処について次の表に示します。

下記の対処を行っても直らない場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

### 何もしていないとき

症状	考えられる原因	対処
火災でないのに「ピーピーピー・・・」と鳴り、赤色警報灯と感震ライトが点灯する。	火災以外の煙（蒸気、ホコリ、殺虫剤など）を検知しています。	火災警報停止ボタンを押すか、煙検知部内の煙がなくなるまでお待ちください。火災以外で警報が多発する場合は、取り付け場所を変更してください。
約1分間隔で「ピ」と鳴り、赤色警報灯が1回点滅する。	リチウム電池の寿命（ピオマの交換時期）です。	一時的に警報音を止めるには火災警報停止ボタンを5秒以上長押ししてください。販売店にご連絡のうえ、新しい警報器と交換してください。（リチウム電池は交換できません。）
約1分間隔で「ピピピ」と鳴り、赤色警報灯が3回点滅する。	煙検知センサの感度が劣化しています。	
約10秒間隔で「ピピピピ」と鳴る。	単3形アルカリ乾電池の寿命です。	一時的に警報音を止めるには感震ライト消灯ボタンを5秒以上長押ししてください。新しい単3形アルカリ乾電池と交換してください。『3.ピオマの取り付け方法』の⑥～⑨をご参照ください。
地震でないのに感震ライトが点灯する。	地震以外の揺れや傾斜を検知しています。	感震ライト消灯ボタンを押し、感震ライトを消してください。多発する場合は、取り付け場所をできる限り振動が少ない壁や天井に変更してください。
地震でないのに感震ライトが点灯し、感震ライト消灯ボタンを押しても、すぐに感震ライトが再点灯する。この症状が繰り返される。	感震器の設置方向が間違っていることが考えられます。	感震器の設置方向を確認してください。『3.ピオマの取り付け方法』の②をご参照ください。
	取り付け方向が間違っていることが考えられます。	取り付け方が正しいか確認してください。『3.ピオマの取り付け方法』をご参照ください。

### 取り付けるとき

症状	考えられる原因	対処
感震ライトが点灯しない。	単3形アルカリ乾電池が正しく入っていないことが考えられます。	単3形アルカリ乾電池が正しい向きで入っているか確認してください。
	単3形アルカリ乾電池切れが考えられます。	新しい単3形アルカリ乾電池と交換してください。『3.ピオマの取り付け方法』の⑥～⑨をご参照ください。
	ピオマの故障が考えられます。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器と交換してください。
感震ライト消灯ボタンを押しても、すぐに再点灯する。	感震器の設置方向が間違っていることが考えられます。	感震器の設置方向を確認してください。『3.ピオマの取り付け方法』の②をご参照ください。
	感震器が安定するまでの時間が足りなかったことが考えられます。	取付ベースに本体を固定後、15秒程度待ってから、再度感震ライト消灯ボタンを押して、完全に消灯することを確認してください。
	ピオマの故障が考えられます。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器と交換してください。
傾斜させた場合は感震ライトが点灯するが、手で振動させると点灯しない。	地震と判別されない振動であることが考えられます。	異常ありません。
振動や傾斜させたときに内部でカタカタ音が鳴る。	感震器の音です。	異常ありません。

### 火災警報停止ボタンを7秒以上長押ししたとき

症状	考えられる原因	対処
何も音が鳴らず、感震ライトも点灯しない。	リチウム電池のコネクタ未接続が考えられます。	電池コネクタが正しく接続されているか確認してください。
	ピオマの故障か、リチウム電池切れが考えられます。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器と交換してください。 (リチウム電池は交換できません。)
警報音は「ピピ、ピーピーピー」と鳴り、赤色警報灯も点灯するが、感震ライトが点灯しない。	単3形アルカリ乾電池が正しく入っていないことが考えられます。	単3形アルカリ乾電池が正しい向きで入っているか確認してください。
	単3形アルカリ乾電池切れが考えられます。	新しい単3形アルカリ乾電池と交換してください。『3.ピオマの取り付け方法』の⑥～⑨をご参照ください。
	移報コネクタのはずれが考えられます。	移報コネクタがはずれていないか確認してください。
	ピオマの故障が考えられます。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器と交換してください。
「ピピ」と1回鳴り、赤色警報灯が点灯または消灯し、感震ライトが点灯しない。	火災警報を停止中です。	この間は火災警報停止ボタンを長押ししても感震ライトは点灯しません。煙がなくなったあと(約5分経過後)再度テストを行ってください。
「ピピ、ピ」と鳴り、赤色警報灯が1回点滅、感震ライトが点灯しない。	リチウム電池の寿命(ピオマの交換時期)です。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器と交換してください。 (リチウム電池は交換できません。)
「ピピ」と鳴り、赤色警報灯が約10秒間隔で1回点滅し、感震ライトが点灯しない。		
「ピピ、ピピピ」と鳴り、赤色警報灯が3回点滅、感震ライトが点灯しない。	煙検知センサの感度が劣化しています。	
「ピピ」と鳴り、赤色警報灯が約10秒間隔で3回点滅し、感震ライトが点灯しない。		

## 12 廃棄について

ピオマおよびリチウム電池、アルカリ乾電池の廃棄については、各市町村で定められた方法にしたがって廃棄してください。  
(付属のリチウム電池・アルカリ乾電池に水銀は含まれていません。)

## 13 アフターサービスについて

1. この商品には保証書が付いております。必ずお買い上げの販売店で所定事項の記入をお確かめになり、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
2. 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。万一故障した場合は、内部機構を触らずにお買い上げの販売店にお申しつけください。
3. アフターサービスについてご不明の点は、お買い上げの販売店または当社のお客様ご相談窓口までご連絡ください。

## 14 仕様

型式	UGS1	
種別	住宅用防災警報器 煙式 (光電式 2種)	
鑑定型式番号	鑑住第18~56号	
火災 警報器	定格	DC3V 50mA
	電源	リチウム電池1本
	電池寿命	約10年
	警報音量	70dB以上 (1mにて)
感震 ライト	電源	単3形アルカリ乾電池4本
	電池寿命	約2年
寸法	159mm×99mm×52mm	
質量	約310g (2種類の電池を含む)	
使用周囲温度	0℃~+40℃	

※電池寿命は使用温度などの外部環境や使用条件によって短くなる場合があります。